

2025 年 7 月 3 日

2025 年夏休み(7 月 15 日～8 月 31 日)の旅行動向

JTB は、「夏休み(2025 年 7 月 15 日～8 月 31 日)に 1 泊以上の旅行に出かける人」の旅行動向見通しをまとめました。本レポートは、1 泊以上の日本人の旅行について、各種経済動向や消費者行動調査、運輸・観光関連データ、JTB グループが実施したアンケート調査などから推計したもので、1969 年から継続的に調査を実施しています。

日並びのよさやボーナスの上昇などを後押しに、旅行意欲は堅調
国内旅行は自然が多く静かな場所で日々の喧騒から離れ、心身ともにリラックスしたい
海外旅行者数はコロナ禍前平均※の9割回復、アジア人気は継続、欧米など遠方は復活傾向

- 夏休みの総旅行者数は 7,464 万人(対前年 100.8%)
総旅行消費額は 4 兆 264 億円(同 108.2%)
- 国内旅行は、旅行者数が 7,220 万人(対前年 100.3%)、平均旅行予定費用は 46,000 円(同 104.5%)、旅行消費額が 3 兆 3,212 億円(同 104.8%)
- 海外旅行は、旅行者数が 244 万人(対前年 120.8%)、平均旅行予定費用は 289,000 円(同 105.5%)、旅行消費額が 7,052 億円(同 127.4%)

【国内旅行】

- 旅行者数は、物価高などの懸念はあるものの、日並びのよさやボーナスの上昇などから旅行意欲は底堅く、昨年より微増
- 平均旅行予定費用(単価)は、物価高で価格自体が上昇していることや、北海道、沖縄などの遠方の人気もあり、昨年より上昇の見込み
- SNS 映えする場所を巡りたい一方で、スマートフォンやパソコンから離れ、心身ともにリラックスしたい意向が特に 20 代～30 代で顕著
- 「夫婦・カップル旅行」に加え、特に男性においては「ひとり旅」も増加

【海外旅行】

- 旅行者数は、航空座席供給数の回復や昨年に比べやや円安傾向が落ち着いたこと、堅調な旅行意欲などを後押しに、前年を大きく上回る見込み
- 平均旅行予定費用(単価)は続く物価高や円安基調、遠方への旅行の増加傾向などから上昇
- 欧米やオセアニアなどは増加傾向。アジアなど近隣への短期旅行も引き続き人気
- 円安の影響が少ない地域を選ぶ、ピークを避けるなどの工夫で賢く旅行

(図表 1)2025 年夏休み旅行予定人数・旅行予定費用推計値

	2025年夏休み			2024年夏休み			2019年夏休み
	推計	2024年比	2019年比	推計・実績	2023年比	2019年比	推計・実績
総旅行人数(延べ)	7,464万人	100.8%	99.0%	7,402万人	101.8%	98.1%	7,543万人
国内旅行	7,220万人	100.3%	99.7%	7,200万人	101.4%	99.4%	7,240万人
海外旅行	244万人	120.8%	80.5%	202万人	116.8%	66.7%	303万人
一人当たりの平均旅行予定費用							
国内旅行	46,000円	104.5%	126.0%	44,000円	104.8%	120.5%	36,500円
海外旅行	289,000円	105.5%	124.6%	274,000円	99.3%	118.1%	232,000円
総旅行消費額	4兆264億円	108.2%	120.3%	3兆7,215億円	107.6%	111.2%	3兆3,456億円
国内旅行	3兆3,212億円	104.8%	125.7%	3兆1,680億円	106.2%	119.9%	2兆6,426億円
海外旅行	7,052億円	127.4%	100.3%	5,535億円	115.9%	78.7%	7,030億円

* 国内旅行人数は宿泊を伴う旅行者の人数(観光および帰省目的の旅行に限る) * 海外旅行人数は出国者数(業務目的の旅行を含む) * 費用は一人1回あたりの平均費用

* 国内旅行平均費用は、交通費・宿泊費・土産代・食費等の旅行中の諸費用を含む * 海外旅行平均費用は、燃油サーチャージを含む。旅行先でのお土産等の現地支払い費用は除く

* 2022年以前の数値について、海外旅行人数は法務省の日本人出国者数データを用いており、それ以外の項目は実績に基づき再推計を実施 * %は全て小数点第2位以下を四捨五入

※コロナ禍前とは 2010 年～2019 年の期間をさします(図表 27 参照)

1. 今年の夏休みのカレンダー(7月15日～8月31日)と旅行傾向

7月						
日	月	火	水	木	金	土
		15	16	17	18	19
20	21	22	23	24	25	27
27	28	29	30	31		

※赤字は国民の休日

8月						
日	月	火	水	木	金	土
					1	2
3	4	5	6	7	8	9
10	11	12	13	14	15	16
17	18	19	20	21	22	23
24	25	26	27	28	29	30
31						

2025年夏休み(7月15日～8月31日出発)の帰省を含めた旅行の詳細について、前述のアンケートで聞きました。今年の夏休みの旅行意向については、「行く(“行く”と“たぶん行く”の合計)」と回答した人は調査時点で34.2%と前年から0.1ポイント増加しました(図表2)。意向はコロナ禍前の2019年(38.0%)には及びませんが、コロナ禍前に戻りつつあると言えます。また、夏休み前の6月15日～7月14日、または夏休み後の9月1日～9月30日の旅行について聞いたところ、「夏休みだけ行く」が12.4%であったのに対し、「夏休みと夏休み前後に行く」は21.8%、「夏休み前後にだけ行く」が8.2%となりました。夏を中心に旅行機会が分散化しているとともに、複数回の旅行をする人も少なくないようです(図表3)。

性年代別でみると、男女とも若い年代ほど旅行意向は高い傾向が見られました。「行く(“行く”と“たぶん行く”の合計)」は、男性29歳以下が最も高い47.3%、女性29歳以下が43.1%となりましたが、いずれも前年より減少しました。一方、シニア層の旅行意欲には回復傾向が見られ、男性60代は33.2%(対前年比2.1ポイント増)、女性60代は25.4%(同1.3ポイント増)、男性70代は27.2%(同2.2ポイント増)、女性70代は23.2%(同1.2ポイント増)とそれぞれ増加しました(図表4)。

旅行に行かない人に理由を聞いたところ、最も多かったのが「夏休み期間は混雑するから(30.9%)」、次いで「家計に余裕がないので(27.8%)」、「家でのんびりしたいので(26.6%)」となりました(図表5)。

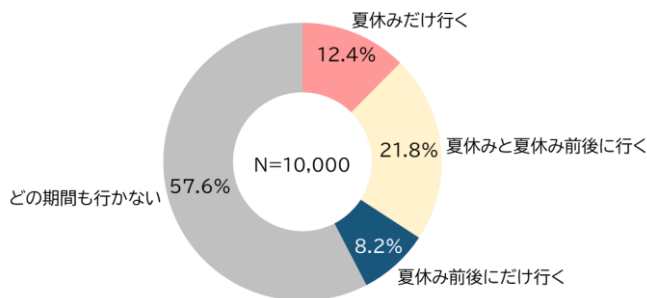
(図表2)夏休みの旅行意向

(単一回答、回答者数=10,000)

	%	前年比	2019年 (コロナ禍前)
行く	34.2	+0.1	38.0
行く	17.5	▲0.1	20.0
たぶん行く	16.7	+0.2	18.0
行かない	65.8	▲0.1	62.1
たぶん行かない	27.2	▲0.8	26.8
行かない	38.6	+0.7	35.3

(図表3)夏休み期間とその前後の旅行実施予定について

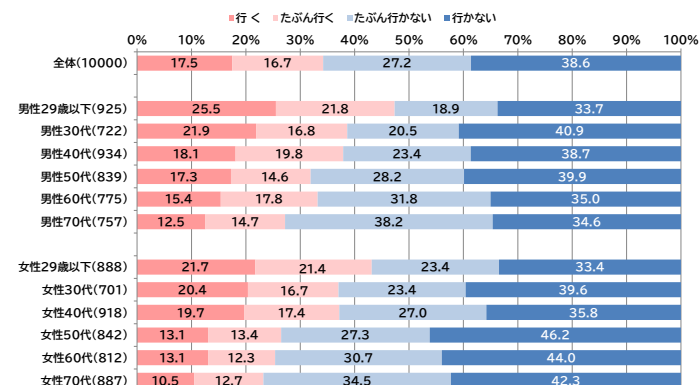
(単一回答、回答者数=10,000)



期間は以下を定義とする。
夏休み前: 6月15日～7月14日 夏休み: 7月15日～8月31日 夏休み後: 9月1日～9月30日

(図表4)夏休みの旅行意向

(性年代別、単一回答、回答者数=10,000)



(図表5)今回の夏休み旅行に行かない理由

(複数回答、回答者数=6,588)

	%	前年比
夏休み期間は混雑するから	30.9	+0.4
家計に余裕がないので	27.8	▲0.4
家でのんびりしたいので	26.6	▲0.7
夏休み期間は旅行費用が高いから	17.8	▲0.1
特に旅行したい場所がないから	13.2	+0.6
仕事などで休暇が取れないから	12.8	▲0.9
なんとなく行く気にならないから	12.6	+0.4
他の時期に旅行に出かけるから	11.3	0.0
家を離れられない事情があるから	11.1	+0.7
家族、友人等と休日が合わないから	6.7	0.0

次に、夏休みに旅行へ行くと答えた本調査対象者 2,060 人へ、今年の夏休みの旅行に対する考え方を聞きました。

「昨年の夏休みより旅行日数を増やす」は 16.2%で、「昨年の夏休みより旅行日数を減らす(5.5%)」を大きく上回りましたが、前年に比べると前者は減少、後者は増加となっており、日数は短くなる傾向が見られます。また、「昨年の夏休みより遠方へ旅行したい(8.8%)」は「昨年の夏休みより近場の旅行に行きたい(5.4%)」を 3.4 ポイント上回るものの、前年と比較すると前者は減少、後者は増加し、その差を縮めてきています。また「8 月 12 日～15 日に休みを取って長期休暇としたうえで旅行する(7.8%)」が 1.0 ポイント減少したのに対し、「お盆時期をずらして長期休暇を取得して旅行する(10.6%)」が 1.2 ポイント増加し、夏休み期間のなかでも分散傾向が強まっているといえます。

旅行費用に関連する項目では、「ガソリン代に関係なく、車を利用したい(17.7%)」が「ガソリン代が高いので車の利用は控えたい(2.9%)」を大きく上回りました。一方で、旅行スタイルについては、添乗員などのサポートに頼らない低価格な旅行を希望する声が多い結果となりました(図表 6)。

(図表 6)今年の夏休みの旅行に対する考え方について(複数回答、回答者数=2,060)

	%	前年比
昨年の夏休み(2024年7月15日～8月31日)より旅行日数を増やす	16.2	▲ 1.5
昨年の夏休み(2024年7月15日～8月31日)より旅行日数を減らす	5.5	+0.3
昨年の夏休み(2024年7月15日～8月31日)より遠方へ旅行したい	8.8	▲ 0.5
昨年の夏休み(2024年7月15日～8月31日)より近場の旅行に行きたい	5.4	+0.8
8月12日～15日に休みを取って長期休暇としたうえで旅行する	7.8	▲ 1.0
お盆時期をずらして長期休暇を取得して旅行する(7月15日～8月31日の間で)	10.6	+1.2
ガソリン代が高いので車の利用は控えたい	2.9	+0.2
ガソリン代に関係なく、車を利用したい	17.7	+0.4
サポートなどがなくてもいいので、とにかく低価格な旅行(個人手配を含む)を行いたい	8.5	+0.2

2. 国内旅行の動向

国内旅行者数は、7,220 万人(対前年 100.3%)、一人当たりの国内旅行平均予定費用は 46,000 円(同 104.5%)、総国内旅行消費額は 3 兆 3,212 億円(同 104.8%)を見込みます(図表 1)。

今年の夏休みの旅行に関するアンケートの本調査対象者(「今年の夏に旅行すると回答した 2,060 人)のうち旅行先を「日本国内」と答えた 1,923 人の旅行の傾向を分析しました。

旅行目的:「家族と過ごす(32.7%)」が最も多くなりました。次いで「リラックスする、のんびりする(28.5%)」、「自然や風景を楽しむ(26.5%)」、「食事、地域の味覚を味わう(26.5%)」となり、いずれも増加しました(図表 7)。

旅行日数:全体では、「1 泊 2 日(36.5%)」が最も多くなりましたが、前年から 1.1 ポイント減少しています。一方、「2 泊 3 日(32.8%)」は 0.5 ポイントの増加、「3 泊 4 日(17.4%)」は 0.5 ポイントの増加となり、1 泊や 4 泊が減少し、2 泊または 3 泊が増加しています。また最も増加率が高かったのは「8 泊以上(2.1%)」で、昨年の 0.3%から 1.8 ポイント増加しました(図表 8)。

旅行先:「関東(17.2%)」が最も多く、次いで「近畿(15.5%)」、「北海道(11.1%)」、「甲信越(11.1%)」となりました。伸び率でみると、「北海道」、「甲信越」ともに 1.2 ポイントの増加、「北陸(3.8%)」は 1.1 ポイントの増加、「九州(10.1%)」と「沖縄(4.3%)」もそれぞれ 0.8 ポイント増加しました(図表 9)。

旅行先を選んだ理由としては、「行きたい場所があるので(44.8%)」が最も多く、次いで、「自家用車やレンタカーで行ける場所なので(19.0%)」、「帰省先なので(18.7%)」となりました(図表 10)。

居住地別に旅行先を見ると、旅行先と居住地が同じ地方である域内旅行の割合は、「北海道(70.2%)」、「九州(52.5%)」の 2 地域で 50%を超えています。一方、関東地方の居住者では旅行先が「関東」となっているのが 19.1%であるのに対し、「中部」は 28.8%と居住地域を上回っています(図表 11)。前年と比較すると、「北海道」、「中国・四国」、「九州」では域内旅行の割合は増加しました。一方「東北」居住者において、域内旅行が 12.8 ポイント減少し、旅行先は「中部」、「近畿」、「北海道」が増加しました(図表 12)。

同行者:「子供づれ(中学生まで)の家族旅行(21.9%)」が最も多く、次いで「夫婦のみ(21.8%)」、「ひとり(19.3%)」の順となりました。前年からの増減に注目すると、「ひとり」と「夫婦のみ」が増加し、「友人・知人・パートナー(13.8%)」、「家族と友人・知人(5.9%)」は、減少しました。大人数で家族以外の親しい人との旅行が増えていた前年と比べ、今年は少人数の旅行が増える様子がうかがえます(図表 13)。

一人当たりの旅行予定費用:全体では、「2 万円～3 万円未満(18.9%)」が最も多く、前年より 0.1 ポイントの増加、次いで「4 万円～5 万円未満(16.5%)」、「1 万円～2 万円未満(16.4%)」となりましたが、いずれも前年より減少しています。一方、増加率でみると「7 万円～10 万円未満(12.6%)」が 1.9 ポイントの増加、「10 万円～15 万円未満(5.3%)」が 1.6 ポイントの増加となりました。7 万円以上の合計は前年に比べて 3.8 ポイントの増加となっています(図表 14)。

利用交通機関:「自家用車(51.6%)」が最も多く、前年より 3.1 ポイント増加しました。次いで「JR 新幹線(24.6%)」、「JR 在来線・私鉄(20.9%)」となりました。前年に比べ、「従来のフルサービスの航空会社(16.2%)」が 3.0 ポイント減少、「高速バス・長距離バス(5.4%)」が 2.3 ポイント減少、「JR 新幹線」が 1.0 ポイント減少する一方で、「格安航空会社(LCC)」は 2.5 ポイントの増加、「JR 在来線・私鉄」は 0.2 ポイントの増加となりました。ガソリンがやや値下がり傾向であること、また旅行目的でも「自然や風景を楽しむ」、「名所や史跡などを見て回る」が増えたことから、車での旅行ニーズが増えている可能性が考えられます(図表 15)。

利用宿泊施設:「ホテル(63.6%)」が最も多く、次いで「旅館(23.5%)」、「実家・親族の家(19.4%)」となり、いずれも前年より増加しています。また回答数は少ないものの、「その他宿泊施設」はすべてのカテゴリーが増加しており、今夏は、多様な宿泊施設が利用される傾向にあるようです(図表 16)。

出かける場所として気になっているところは、「自然が楽しめる場所(国立公園や花畑など)(32.0%)」、次いで「動物園や水族館(14.8%)」となりました。性年代別に見ると「自然が楽しめる場所(登山やアウトドアなど)」は男性 30 代が高く(20.3%)、花火大会は女性 29 歳以下が高い(18.4%)など、夏の楽しみ方に性年代別の特徴が表れています(図表 17)。

また、夏休みに体験してみたいことについて聞いたところ、「絶景やグルメなど、SNS 映えする場所を巡り、発信する(16.5%)」、「スマートフォンなどから離れ、心身の疲労やストレスを軽減する(14.4%)」、「キャンプやアウトドア体験など自然が楽しめる場所で過ごす(14.4%)」の順に高くなりました。いずれも特に 20 代～30 代で高い選択率となっており、SNS 映えする場所を巡りたい一方で、スマートフォンなどに追われる時間から離れ、自然の中で心身ともにリラックスしたいというニーズもうかがえます(図表 18)。

JTB の国内旅行における人気方面は、大阪・関西万博の開催や 7 月 25 日開業予定のテーマパーク「JUNGLIA OKINAWA」の開業効果により、京阪神エリアおよび沖縄本島への旅行予約が好調に推移しています。また瀬戸内国際芸術祭 2025 の開催やテレビドラマの影響などもあり、中国・四国地方への旅行も例年より増加傾向にあります。

(図表 7)旅行目的(複数回答)

	%	前年比
家族と過ごす	32.7	+0.4
リラックスする、のんびりする	28.5	+0.2
自然や風景を楽しむ	26.5	+1.1
食事、地域の味覚を味わう	26.5	+0.6
温泉でゆっくりする	23.5	▲0.6
知人・友人・パートナーと過ごす	14.1	▲0.6
帰省	14.0	▲0.1
イベント・祭り・観劇・スポーツ観戦など	11.9	+0.4
趣味を楽しむ・極める	11.9	+0.7
名所や史跡などを見て回る	11.6	+1.5
テーマパークやレジャー施設	11.6	▲0.2

(図表 8)旅行日数(単一回答)

	%	前年比
1泊2日	36.5	▲1.1
2泊3日	32.8	+0.5
3泊4日	17.4	+0.5
4泊5日	4.9	▲0.6
5泊6日	3.7	+0.2
6泊7日	1.5	+0.3
7泊8日	1.1	▲0.2
8泊以上	2.1	+1.8

(図表 9)旅行先(単一回答)

	%	前年比
北海道	11.1	+1.2
東北	8.1	▲0.8
関東	17.2	▲3.4
甲信越	11.1	+1.2
北陸	3.8	+1.1
東海	10.0	▲1.5
近畿	15.5	+0.5
中国・四国	8.8	+0.1
九州	10.1	+0.8
沖縄	4.3	+0.8

(図表 10)旅行先を選んだ理由(複数回答)

	%	前年比
行きたい場所があるので	44.8	+0.4
自家用車やレンタカーで行ける場所なので	19.0	+1.4
帰省先なので	18.7	▲0.8
泊まりたい宿泊施設があるので	16.4	▲0.1
季節を感じられる場所に行きたいので	12.8	▲0.3
友人・知人など会いたい人が住んでいるので	12.6	▲1.0
行ってみたいイベントがあるので	11.8	▲1.0
自分の好きな地域を応援したいので	7.1	+0.1
手頃な値段のツアーや航空チケット・宿泊先等を見つけたので	6.0	+0.6
観光客などで混雑してなさそうだから	5.9	▲0.2
その土地で今流行っているものを体験したいので	4.9	+0.6
家族の赴任先なので	2.3	0.0
円安などの影響を受けて、旅行先を海外から国内に変更したため	2.2	▲0.5
国際情勢や感染症などの心配がない地域なので	1.9	▲0.2
今年話題になっている場所なので	0.6	+0.3
その他	4.3	▲0.4

(図表 11)回答者の居住地別 夏休みの旅行先

(地域別、単一回答、回答者数=2,060)

	北海道	東北	関東	中部 (東海・甲 信越・北 陸)	近畿	中国・ 四国	九州 (沖縄含 む)	海外
全体(2060)	10.4	7.6	16.0	23.3	14.5	8.3	13.4	6.7
北海道地方(94)	70.2	4.3	7.4	2.1	5.3	3.2	4.3	3.2
東北地方(90)	11.1	41.1	22.2	12.2	6.7	1.1	2.2	3.3
関東地方(836)	10.6	9.9	19.1	28.8	9.9	3.9	9.3	8.3
中部地方(341)	5.9	3.5	15.0	39.3	17.3	4.7	9.7	4.7
近畿地方(365)	5.2	3.3	13.4	19.2	25.8	13.7	11.0	8.5
中国・四国地方(153)	2.6	2.0	11.8	6.5	20.9	37.3	15.7	3.3
九州地方(181)	3.3	2.8	13.8	6.1	10.5	5.5	52.5	5.5

(図表 12)回答者の居住地別 夏休みの旅行先

前年増減比(地域別、単一回答、回答者数=2,060)

	北海道	東北	関東	中部 (東海・甲 信越・北 陸)	近畿	中国・ 四国	九州 (沖縄含 む)	海外
全体	1.2	-0.8	-3.2	0.8	0.5	0.1	1.5	0.0
北海道地方	7.2	0.3	-8.6	0.1	-1.7	3.2	1.3	-1.8
東北地方	4.2	-12.8	-1.3	6.3	5.7	-0.8	-0.7	-0.6
関東地方	0.5	-1.4	-3.3	1.3	2.0	-0.5	-0.1	1.5
中部地方	-0.3	0.7	-4.7	-4.1	3.8	0.7	3.2	0.7
近畿地方	2.1	1.4	-3.8	0.7	-0.5	-0.2	0.1	0.2
中国・四国地方	0.1	0.1	-1.2	-0.3	-9.3	11.3	2.7	-3.5
九州地方	2.0	0.8	0.7	2.2	2.0	-5.6	2.2	-4.3

*図表 11、12 のみ全体傾向把握のため、旅行先を「海外」としている旅行者を含む

(図表 13)旅行の同行者(単一回答)

	%	前年比
家族づれ	59.0	▲0.8
夫婦のみ	21.8	+1.7
子供づれ(中学生まで)	21.9	▲2.5
三世代	6.7	+0.2
それ以外(母娘など)	8.5	▲0.1
家族と友人・知人	5.9	▲1.0
友人・知人・パートナー	13.8	▲1.6
団体(職場など)	0.6	▲0.3
ひとり	19.3	+3.2
その他	1.4	+0.6

(図表 14)一人当たりの旅行予定費用(単一回答)

	%	前年比
1万円未満	7.2	▲1.7
1万円～2万円未満	16.4	▲1.4
2万円～3万円未満	18.9	+0.1
3万円～4万円未満	10.7	+0.3
4万円～5万円未満	16.5	▲0.5
5万円～7万円未満	8.8	▲0.6
7万円～10万円未満	12.6	+1.9
10万円～15万円未満	5.3	+1.6
15万円～20万円未満	2.2	+0.3
20万円～30万円未満	1.0	+0.4
30万円～40万円未満	0.3	▲0.1
40万円以上	0.2	▲0.3

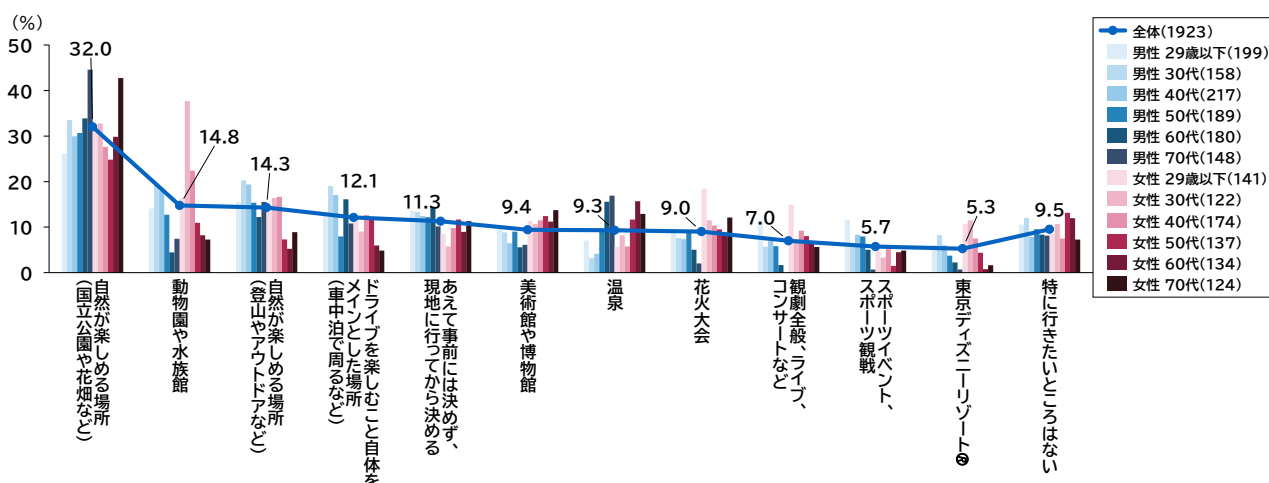
(図表 15)利用交通機関(複数回答)

	%	前年比
自家用車・レンタカー		
自家用車	51.6	+3.1
レンタカー	10.8	+0.2
鉄道		
JR新幹線	24.6	▲1.0
JR在来線・私鉄	20.9	+0.2
航空機		
従来のフルサービスの航空会社	16.2	▲3.0
格安航空会社(LCC)	6.1	+2.5
バス		
高速バス・長距離バス	5.4	▲2.3
貸切バス	1.5	▲0.2
フェリー・船	3.2	+0.4
その他	0.9	+0.3

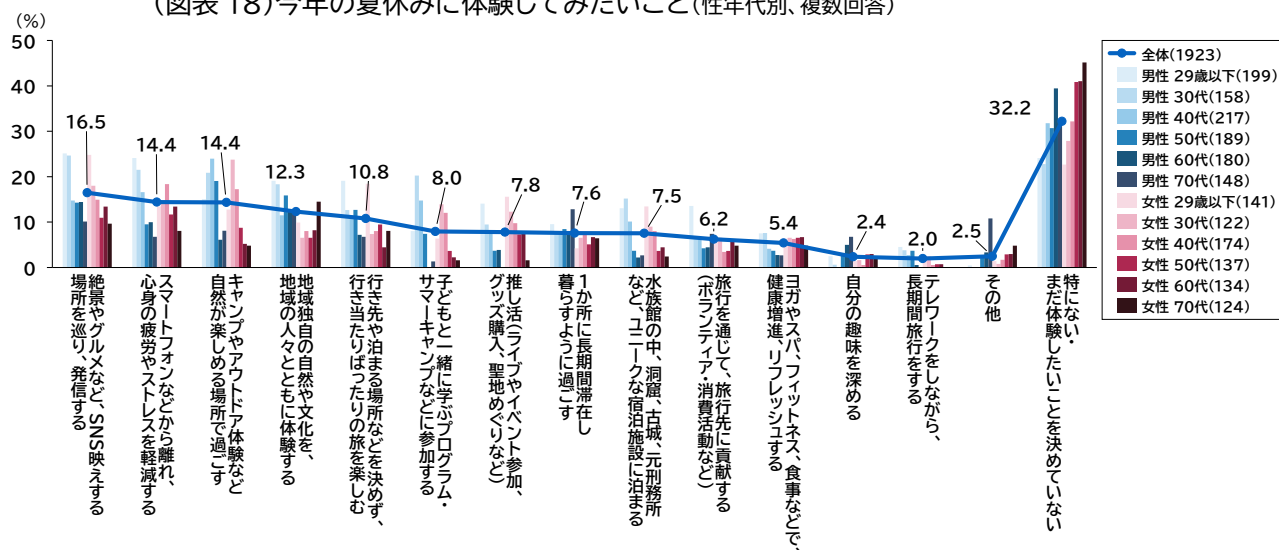
(図表 16)利用宿泊施設(複数回答)

	%	前年比
旅館・ホテル・民宿・ペンションなど		
ホテル	63.6	+1.0
旅館	23.5	+1.0
民宿・ペンション・公営施設・オーベルジュなど	5.6	▲0.1
その他宿泊施設		
民泊・貸別荘	3.0	+0.3
ホステル・ゲストハウス	2.3	+0.4
キャンプ場・キャンピングカーなど	5.8	+0.5
アウトドアに関する宿泊		
本来宿泊施設ではないユニークな施設(寺・図書館・城など)	1.2	+0.4
実家・親族の家	19.4	+0.7
友人・知人の家	3.2	▲0.4
その他	1.6	+0.4

(図表 17)今年の夏休みに出かける場所として気になっているところ(性年代別、複数回答)



(図表 18)今年の夏休みに体験してみたいこと(性年代別、複数回答)



*図表 7~10,13~18 の回答者数はすべて 1,923

3. 海外旅行の動向

海外旅行者数は 244 万人(対前年 120.8%、対 19 年 80.5%)と推計しました。2010 年から 2019 年の海外旅行者数は、毎年約 267 万人前後で推移しており、これと比較すると 9 割程度まで回復しています。なお、2019 年は、4 月から年 5 日の年次有給休暇取得が義務化されたことに加え、8 月 13 日~16 日にお盆休みを入れることで、最大 9 連休を取得できた日並びのよさもあり活況でした。

一人当たりの海外旅行平均予定費用は 289,000 円(同 105.5%)、総海外旅行消費額は 7,052 億円(同 127.4%)です。具体的な傾向は、次に述べる通りです。

本調査対象者 2,060 人のうち、今年の夏休みの旅行先を「海外」と答えた人は 137 人(6.7%)となりました。旅行日数は「3 泊 4 日(21.2%)」が最も多くなりましたが、前年より 1.4 ポイントの減少となりました。次いで「5 泊 6 日(16.1%)」が 3.0 ポイントの増加、「2 泊 3 日(16.1%)」が 2.2 ポイント増加しました(図表 19)。また、一人当たりの旅行予定費用は「40 万円以上(22.6%)」が最も多く、前年より 5.1 ポイント増加し、次いで「7 万円~10 万円未満(16.1%)」、「10 万円~15 万円未満(13.1%)」となりました(図表 20)。行先は上位から、「韓国(16.8%)」と「ヨーロッパ(16.8%)」が同率でトップとなり、「台湾(13.9%)」、「東南アジア(13.9%)」が続きました(図表 21)。日数や予定費用の傾向からも、今年は引き続き、遠距離と近距離の二極化傾向が見られるようです。

JTB の海外旅行の好調な方面は昨年度に引き続きハワイ、韓国、台湾やアメリカです。特にアメリカ西海岸が前年からの伸び率が好調な理由として、MLB™ 公式観戦券付ツアーが人気を博していることがあげられます。またヨーロッパも、便数の増加やキャンペーンの効果により、前年からの伸び率が大きくなりました。

次に、この夏休みに旅行に行かない人も含めた事前調査対象者に、今後の海外旅行に対しての意向を聞きました。海外旅行の行先別に、実施意向の時期をみると、「すぐに行きたい」という回答は「ハワイ(11.1%)」が最も多く、次いで「ヨーロッパ(10.8%)」、「オーストラリア・ニュージーランド(9.4%)」となりました(図表 22)。

(図表 19)旅行日数(単一回答) (図表 20)一人当たりの旅行予定費用(単一回答) (図表 21)旅行先(単一回答)

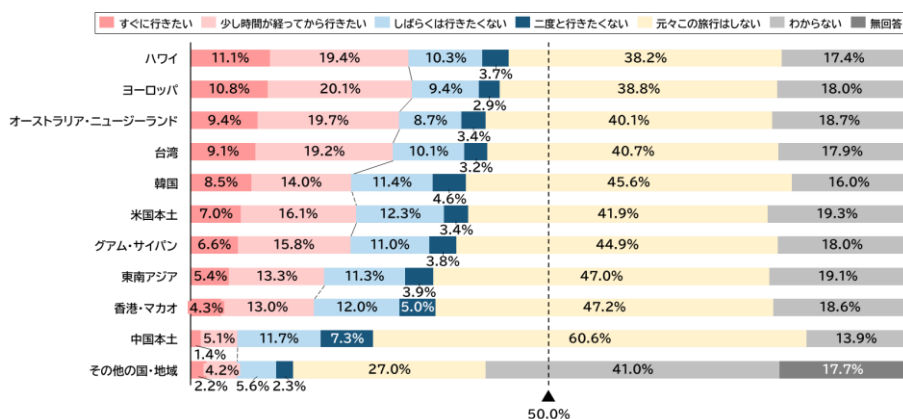
	%	前年比	2019年 【参考値】 %
1泊2日	2.9	0.0	0.9
2泊3日	16.1	+2.2	11.3
3泊4日	21.2	▲1.4	12.3
4泊5日	14.6	+1.5	19.8
5泊6日	16.1	+3.0	16
6泊7日	3.6	▲0.8	10.4
7泊8日	8.0	▲0.8	5.7
8泊9日	1.5	▲2.1	5.7
9泊10日	4.4	▲0.7	3.8
10泊以上	11.7	▲0.7	14.2

	%	前年比	2019年 【参考値】 %
1万円未満	0.0	▲1.5	0.0
1万円～2万円未満	0.7	▲1.5	0.0
2万円～3万円未満	0.7	▲1.5	0.0
3万円～4万円未満	3.6	0.0	1.9
4万円～5万円未満	7.3	+3.7	1.9
5万円～7万円未満	5.1	▲2.2	7.5
7万円～10万円未満	16.1	+3.7	15.1
10万円～15万円未満	13.1	+2.9	23.6
15万円～20万円未満	12.4	▲8.8	17.0
20万円～30万円未満	10.9	+2.1	10.4
30万円～40万円未満	7.3	▲2.2	5.7
40万円以上	22.6	+5.1	17.0

	%	前年比
韓国	16.8	+1.5
台湾	13.9	0.0
ハワイ	9.5	▲2.2
東南アジア	13.9	▲0.7
ヨーロッパ	16.8	▲0.7
オーストラリア	3.6	+0.7
米国本土	8.0	+4.4
カナダ	2.2	+0.7
香港・マカオ	1.5	▲0.7
グアム・サイパン	2.2	0.0
ニュージーランド	0.7	0.0
中東	1.5	0.0
中国本土	3.6	▲1.5
その他海外	5.8	▲1.5

*図表 19～21 の回答者数はすべて 137

(図表 22)行先別、今後の海外旅行の実施意向(単一回答、回答者数=10,000*事前調査対象者)



4. 旅行やレジャー消費をとりまく経済環境と生活者意識

日本経済は、アメリカによる関税政策の影響、物価上昇と実質賃金の停滞、円安傾向の継続などにより、輸出・消費・雇用環境に不安定さが広がる状況が続いていますが、25 年後半以降は緩やかな回復が期待されています。2025 年初頭には 39,000 円台後半の高水準であった日経平均株価は、2025 年 2 月から 3 月にかけて急落しましたが、4 月以降はやや持ち直し、5 月には 38,000 円前後まで回復しています。2025 年 6 月の月例経済報告では、景気の基調判断は、「緩やかに回復しているが、米国の通商政策等による不透明感が見られる。」と据え置かれ、個人消費は 3 カ月連続で「消費者マインドが弱含んでいるものの、雇用・所得環境の改善の動きが続くなかで、持ち直しの動きが見られる。」と、不透明ななかでも持ち直しの動きがうかがえます。

複数の調査期間が発表された、2025 年夏のボーナスの見通しによると、民間企業の一人当たり支給額は概ね前年比 2～3%増と堅調で、4 年連続の増加が見込まれています。好業績と人材流出防止の観点から、ボーナスを増やす企業が増え、個人消費の下支えになることが期待されています。

一方で物価に関しては、主な項目の消費者物価指数を見ると、「生鮮食品」は 2025 年 1 月をピークに下降傾向にあるものの、残りの品目は引き続き微増傾向にあります(図表 23)。なお、ガソリンについては 5 月 22 日から政府が開始した「燃料油価格定額引下げ措置」以降、価格は下がっています。

また日本銀行の「生活意識に関するアンケート調査」の「現在の暮らし向き」をみると、直近の 2024 年 12 月

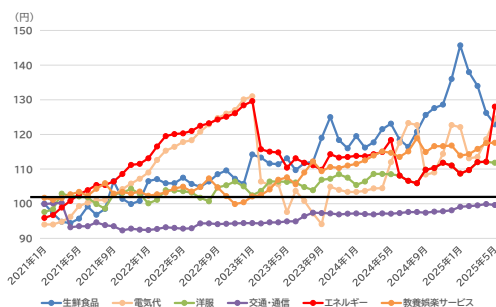
と 2025 年 3 月を比較すると「ゆとりがでてきた」の割合は減少したものの、「ゆとりがなくなってきた」割合も減少し、徐々に暮らし向きの悪化傾向には歯止めがかかってきていることが考えられます(図表 24)。

JTB が実施したアンケートで、「今後 1 年間の旅行の支出に対する意向」については 2 年連続で、「これまでより旅行支出を減らしたい(38.4%)」が前年より増加し、「これまでより旅行支出を増やしたい(11.4%)」は減少しました。今後の旅行支出額については、抑えていきたい意向が見られます(図表 25)。

また、「今夏の自身の生活と旅行に関する状況」をみると、「家計に余裕がある(13.9%)」は前年から 0.4 ポイント減、「家計に余裕がない(48.4%)」は 0.2 ポイント増、「いつもより生活費を節約している(45.2%)」は 0.8 ポイント増、「特に生活費を節約していない(18.9%)」は 0.3 ポイント減となりました。給与やボーナスに関しては良好傾向がみられるものの、まだ家計に余裕があるとは言えない状況がうかがえます。

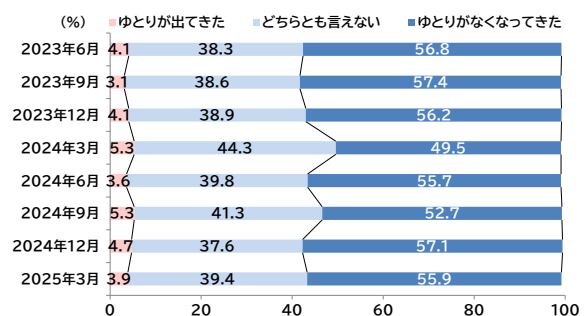
一方、支出については「趣味や旅行などにかかる費用を減らしている(31.3%)」が 0.2 ポイント増に対し、「趣味や旅行などにかかる費用は減らしていない(27.3%)」が 0.9 ポイント増加しました。また「先行きがわからないので、大きな支出は控えておきたい(45.6%)」が 0.6 ポイント減少、「先行きがわからないので、今のうちに大きな支出を考えたい(12.6%)」は 0.4 ポイント増加したことなどからも、消費者は節約しながらメリハリをつけてお金を使っているようです(図表 26)。

(図表 23)消費者物価指数の推移



出典:総務省「消費者物価指数(2020 年基準)」データをもとに JTB 総合研究所作成

(図表 24)現在の暮らし向き



出典:日本銀行「生活意識に関するアンケート調査」データをもとに JTB 総合研究所作成

(図表 25)今後 1 年間の旅行の支出に対する意向

(単一回答、回答者数=10,000)

	%	前年比
支出を増やしたい	11.4	▲ 1.1
同程度(合算)	50.2	+0.1
回数を増やし単価を減らす	10.1	▲ 0.2
回数を減らし単価を増やす	8.5	▲ 0.7
回数も単価も同程度	31.6	+0.9
支出を減らしたい	38.4	+1.0

(図表 26) 今夏の自身の生活と旅行に関する状況

(複数回答、回答者数=10,000)

	%	前年比
家計に余裕がある	13.9	▲ 0.4
家計に余裕がない	48.4	+0.2
いつもより生活費を節約している	45.2	+0.8
特に生活費を節約していない	18.9	▲ 0.3
趣味や旅行などにかかる費用を減らしている	31.3	+0.2
趣味や旅行などにかかる費用は減らしていない	27.3	+0.9
先行きがわからないので、今のうちに大きな支出を考えたい	12.6	+0.4
先行きがわからないので、大きな支出は控えておきたい	45.6	▲ 0.6

【旅行動向アンケート 調査方法】

調査実施期間:2025 年 6 月 9 日~11 日

調査対象:全国 15 歳以上 79 歳までの男女個人

サンプル数:事前調査 10,000 名 本調査 2,060 名

(事前調査で「夏休みに旅行に行く／たぶん行く」と回答した人を抽出し本調査を実施)

調査内容:2025 年 7 月 15 日~8 月 31 日に実施する 1 泊以上の旅行

(国内旅行は観光および帰省目的の旅行に限る、海外旅行は業務目的の旅行を含む)

調査方法:インターネットアンケート調査

※調査結果の数字は四捨五入のため、小計や前年公表の調査結果との差分が合わない箇所があります。

<報道関係の方からのお問い合わせ先>

JTB 広報室 03-5796-5833(東京) 06-6260-5108(大阪)

(図表 27)「夏休み旅行予定人数・旅行予定費用推計値」の推移

	旅行人数(万人)			旅行平均費用(円)		総消費額(億円)		
	総数	国内旅行	海外旅行	国内旅行	海外旅行	総数	国内旅行	海外旅行
	前年比	前年比	前年比	前年比	前年比	前年比	前年比	前年比
2001	7,562	7,296	266	35,115	210,149	31,210	25,620	5,590
	+1.9%	+1.9%	+0.8%	▲2.0%	+2.0%	+0.4%	▲0.1%	+2.8%
2002	7,612	7,369	243	33,654	213,091	29,978	24,800	5,178
	+0.7%	+1.0%	▲8.6%	▲4.2%	+1.4%	▲3.9%	▲3.2%	▲7.4%
2003	7,535	7,347	188	33,923	222,893	29,113	24,923	4,190
	▲1.0%	▲0.3%	▲22.6%	+0.8%	+4.6%	▲2.9%	+0.5%	▲19.1%
2004	7,490	7,242	248	34,975	208,851	30,509	25,330	5,179
	▲0.6%	▲1.4%	+31.9%	+3.1%	▲6.3%	+4.8%	+1.6%	+23.6%
2005	7,604	7,365	239	35,300	214,600	31,128	25,999	5,129
	+1.5%	+1.7%	▲3.6%	+0.9%	+2.8%	+2.0%	+2.6%	▲1.0%
2006	7,657	7,410	247	35,716	223,100	31,977	26,466	5,511
	+0.7%	+0.6%	+3.3%	+1.2%	+4.0%	+2.7%	+1.8%	+7.4%
2007	7,662	7,420	242	36,200	232,000	32,474	26,860	5,614
	+0.1%	+0.1%	▲2.0%	+1.4%	+4.0%	+1.6%	+1.5%	+1.9%
2008	7,572	7,348	224	35,800	249,000	31,884	26,306	5,578
	▲1.2%	▲1.0%	▲7.4%	▲1.1%	+7.3%	▲1.8%	▲2.1%	▲0.6%
2009	7,353	7,128	225	34,300	212,300	29,225	24,448	4,777
	▲2.9%	▲3.0%	+0.4%	▲4.2%	▲14.7%	▲8.3%	▲7.1%	▲14.4%
2010	7,669	7,427	242	35,500	222,100	31,741	26,366	5,375
	+4.3%	+4.2%	+7.6%	+3.5%	+4.6%	+8.6%	+7.8%	+12.5%
2011	7,524	7,264	260	33,260	227,300	30,070	24,160	5,910
	▲1.9%	▲2.2%	+7.4%	▲6.3%	+2.3%	▲5.3%	▲8.4%	+10.0%
2012	7,742	7,460	282	33,730	231,400	31,546	25,163	6,525
	+2.9%	+2.7%	+8.5%	+1.4%	+1.8%	+4.9%	+4.2%	+10.4%
2013	7,887	7,624	263	35,010	240,420	33,015	26,692	6,323
	+1.9%	+2.2%	▲6.7%	+3.8%	+3.9%	+4.7%	+6.1%	▲3.1%
2014	7,805	7,545	260	34,850	249,800	32,789	26,294	6,495
	▲1.0%	▲1.0%	▲1.1%	▲0.5%	+3.9%	▲0.7%	▲1.5%	+2.7%
2015	7,803	7,561	242	34,700	251,500	32,317	26,237	6,080
	▲0.0%	+0.2%	▲6.9%	▲0.4%	+0.7%	▲1.4%	▲0.2%	▲6.4%
2016	7,674	7,410	264	33,700	216,300	30,681	24,971	5,710
	▲1.7%	▲2.0%	+9.1%	▲2.9%	▲14.0%	▲5.1%	▲4.8%	▲6.1%
2017	7,732	7,460	272	34,400	216,000	31,511	25,663	5,848
	+0.7%	+0.7%	+3.0%	+2.1%	▲0.1%	+1.0%	+2.8%	+2.4%
2018	7,742	7,453	289	34,800	214,500	32,134	25,935	6,199
	+0.1%	▲0.1%	+6.3%	+1.2%	▲0.7%	+2.0%	+1.1%	+6.0%
2019	7,543	7,240	303	36,500	232,000	33,456	26,426	7,030
	▲2.6%	▲2.9%	+4.8%	+4.9%	+8.2%	+4.1%	+1.9%	+13.4%
2020	3,805	3,800	5	32,000	170,000	12,245	12,160	85
	▲49.6%	▲47.5%	▲98.3%	▲12.3%	▲26.7%	▲63.4%	▲54.0%	▲98.8%
2021 (期間変更)	4,009	4,000	9	33,000	-	13,200	13,200	-
	-	-	-	-	-	-	-	-
2022	6,256	6,200	56	37,000	-	22,940	22,940	-
	-	-	-	-	-	-	-	-
2023	7,273	7,100	173	42,000	276,000	34,595	29,820	4,775
	+16.3%	+14.5%	+208.9%	+13.5%	-	-	+30.0%	-
2024	7,402	7,200	202	44,000	274,000	37,215	31,680	5,535
	+1.8%	+1.4%	+16.8%	+4.8%	▲0.7%	+7.6%	+6.2%	+15.9%
2025	7,464	7,220	244	46,000	289,000	40,264	33,212	7,052
	+0.8%	+0.3%	+20.8%	+4.5%	+5.5%	+8.2%	+4.8%	+27.4%

*対象期間は7月15日～8月31日（ただし2021年のみ、7月20日～8月31日）。

*調査開始は1969年。海外旅行人数は実績値。国内旅行人数は推計値で、動向結果により前年の発表数値から一部修正。

*平均費用については、1993年より推計。動向結果により前年の発表数値から一部修正。

*2019年より市場調査をインターネットアンケート調査に変更。

*2021年・2022年は海外旅行平均費用および海外旅行消費額を算出していないため、総旅行消費額は国内旅行消費額で掲載。

*2021～2023年の総消費額は単純比較が行えないため、前年比の記載なし。